

## アメリカ側から見た日本 収集？公開？そして未来のビジョンは？

A view from an American museum librarian Collection Development vs Open Access:  
What is your vision for the future?

カワイアエア 藤田 幸代\*

### みなさま、アロハ！

岩瀬可奈子さんと同じく常夏のハワイから参りました、ホノルル美術館ロバート・アラートン美術ライブラリー主任司書のカワイアエア藤田幸代と申します。

私はアートの世界に入ってまだ3年に満たない新人です。今回の JAL2014 プロジェクトで訪れた場所、そこでお会いした方々、目にしたもの、私にとっては『初めて』の連続でした。正直、まだ自分の中でそれらが消化しきれておりません。ですので今日は、そんな若葉マークのアメリカから参加したミュージアム・ライブラリアンが見て感じたことや考えたこと、という視点でお話ししていきたいと思います。

まずはホノルル美術館についてご紹介します。

1927年、今から87年前、アナ・クック・ライス (Anna Cooke Rice) という一人の女性が自分の邸宅を改築し、私財を投げ打って美術館をハワイの人々、とりわけ未来の子供たちのために、と建てたのが始まりです。2011年にはハワイで唯一現代アートを展示する美術館だったコンテンポラリー・ミュージアム (The Contemporary Museum) を吸収合併し、2012年には名称を『Honolulu Academy of Arts』から『Honolulu Museum of Art』に変更しました。所蔵・展示する作品が古代から現代美術まですべてのジャンルを網羅する総合美術館として組織も大きく変わり、変革期の真っ只中にいます。現在所蔵する美術品は約5万点、100人余りのスタッフが美術館運営に関わっています。来年2015年にはホノルル美術館は米寿の年を迎えます。

では簡単なスライドをご覧くださいながらホノルル美術館をご案内いたします。

[中庭・ハワイ・西洋・東洋・シアター・スポルディングハウス・シャングリラツアー]

### <浮世絵コレクション>

ホノルル美術館といえば「浮世絵」を思い浮かべる方も多いのではないかと思います。今年の初めに国際浮世絵学会五十周年を記念した「大浮世絵展」が話題になりましたが、ホノルル美術館からもその「大浮世絵展」に作品を提供しております。今日のワークショップのトップバッターを飾った長谷川正子さんがいらっしゃるパリの国立ギメ東洋美術館も「大浮世絵展」に海外から参加した五つの美術館のひとつです。

ホノルル美術館所蔵の浮世絵1万2千作品のうち約半分、6,400点はデジタル化されオンライン上で公開されています。ランジ財団の支援によって始まったこのプロジェクトは eMuseum と呼ばれ TMS (The Museum System) というプログラムを使ってすべての作品をデジタル化する計画で現在も進行中です。詳しくは [art.honoluluuseum.org](http://art.honoluluuseum.org) をご覧ください。

### <春画展：2012-2013-2014>

現在、ホノルル美術館のいちおしは、先月20日に始まった「春画展」です。大英博物館の春画展より一年前に第一回目が開催されたこの春画展は、三年がかりの大きな展示会で、初回・第二回とホノルル美術館が所蔵する鈴木春信や広重が描く吉原などの浮世絵を中心に展開、最終回の今年は「Modern Love」と題し20世紀以降の春画と現代のエロチック・アートがテーマになって

\* カワイアエア ふじた さちよ (ホノルル美術館ロバート・アラートン美術ライブラリー室長, Kawai 'ae 'a Fujita Sachiyo, Head Librarian, Robert Allerton Art Library, Honolulu Museum of Art)

います。この春画展の内容は日本語でもホームページ上でご案内していますので <http://shunga.honolulumuseum.org/> こちらも合わせてぜひご覧ください。

#### < Education : 教育 >

アメリカにおいて美術館は「作品を展示する場所」というだけに止まらず美術教育の一端を担うという役割も果たします。ホノルル美術館も例外ではなく、幼稚園児から高校生・大学生にいたるまで、毎日のように子供たちが大型バスに乗ってやって来ます。日本の美術館と違ってそれはそれはにぎやかです。スクール・ツアー専門のドーセント（トレーニングを受けた専門ガイド）がテーマにそってレクチャーをしたり、本物のアートに触れながらさまざまなアクティビティをしたりといった光景をギャラリーのあちこちで見ることができます。

#### < Events & Fundraising : イベントとファンドレイジング >

ホノルル美術館はアートを展示するギャラリーに加え、さきほどスライドでご覧いただいた劇場で映画やパフォーマンス、コンサートなどさまざまなイベントを開催しています。毎月第三日曜日に行なう Family Sunday のような無料イベント、通常の閉館時間後に特別開催される Art After Dark（最終金曜日）など、幅広い年齢層をターゲットにした催し物を企画し毎回百人以上の来館者で賑わう人気イベントが年間を通して行なわれています。

ホノルル美術館は公の機関ではなく非営利団体です。ですので Fundraising を兼ねたイベントも定期的に行なっています。その中でも一番大掛かりでゴージャスなクリスマスパーティーがちょうど今週土曜日（12月13日）に予定されています。その模様を去年の写真から抜粋してご紹介します。（写真：ステファン・ヨスト館長とアリソン・ウォング副館長；ゲスト：オバマ大統領の妹ご夫妻）

日本が発祥の地である『ペチャクチャナイト』もハワイではホノルル美術館が会場です。次回は

ホノルル時間の今週金曜日（12月12日）午後6時半からアートスクールの庭で開催されます。

#### < ライブラリーの紹介 >

1927年にホノルル美術館がオープンした当初から存在し、美術館スタッフだけでなく一般にも広く公開しているライブラリーです。貸し出し業務は行なっておりませんが、使用料や会員手続きなども無く、どなたでも利用できる施設です。ギャラリー内に入り口があるため利用者にはピカソなど西洋美術を展示しているギャラリーから入館していただいています。514冊からスタートした蔵書も現在約5万5千冊。美術書や図録、世界の主要美術雑誌（現在40タイトル）、クリスティやサザビーズなどのオークションカタログ、独自で集めたアーティスト・ファイルに加え、商業データベースにもアクセスしながらレファレンス・サービスを行なっています。ハワイ大学美術学部出身の2人のアシスタント、8人のボランティアの方々といっしょにライブラリーを運営しています。

#### < Click! Click! Click! : ソーシャルネットワーク >

ホームページに加え、e-Newsletter や Blog などで最新情報を発信しています。Instagram, Facebook, Twitter など 2-way つまり相互で情報を発信しあえる手法は美術館のPRには欠かせないコミュニケーションツールです。ハワイのような海に囲まれた場所では不可欠なメディアです。

#### < Personal history : ライブラリアンとしての歩み >

では次に私自身について少しお話ししたいと思います。

ハワイ大学在学中にルームメイトに頼まれ、ピンチヒッターとして大学図書館の日本研究専門ライブラリアン故松井正人博士の学生アシスタントのアルバイトを引き受け、それが縁で学士終了後にライブラリースクールへ進学しました。そして修士課程が終了した1993年の夏、突然一本の電話が掛かってきます。その電話の主が当時東



京アメリカンセンター (TAC) のレフェレンス資料室室長だった京藤松子さん。なんの面識も無かった京藤さんとお会いしてほどなく米国政府機関広報文化交流庁 (USIA) の一員となり、ライブラリアンとしての第一歩を踏み出しました。TAC ではレフェレンス・ライブラリアンとしてアメリカの最新情報の提供に従事する傍ら、アメリカ大統領訪問時のプレスセンターや京都議定会議 COP3 などの国際会議等々、図書館という箱を飛び出していろいろな場所でさまざまな経験をさせていただきました。

再びハワイに戻り、日本を中心としたアジアの資料を主に扱うライブラリアンとして大学図書館に勤務したのが 2000 年の 1 月。そして 2012 年 1 月より『美術館』という新しい世界に飛び込み、ミュージアム・ライブラリアンとして歩き始めたところでした。

私は自己紹介する際には「ミュージアム・ライブラリアン」と名乗ります。ライブラリーがミュージアムの美術所蔵コレクションをサポートする立場であるということがその理由ですが、加えて、ホノルル美術館の現館長がハワイのコミュニティに貢献するという分野にとっても力を入れていることにも関係します。昨年からライブラリーは、Advancement Team に属し、時にはライブラリアンという枠から外れて、美術館の一スタッフとしてイベントの手伝いや Fundraising の一端を担ったり、政府機関や民間などからの補助金・寄付金のための原稿のドラフトや、日本語通訳、Facebook や Twitter など SNS の日本語発信のゴーストライターをすることもありますし、カフェのメニューも訳します。私はホノルル美術館のたった独りのライブラリアンなので西洋もアフリカも所蔵している美術に関する資料はすべて担当していますし、チームの一員として美術館を支える仕事はなんでもします。扱うものがアートばかりではないのです。つまり「アートライブラリアン」ではなく、「ミュージアム・ライブラリアン」と言った方が私のポジションを説明し易いということ、またそういったことがこのポジションに就く際の条件でもありました。

では最後に、今回のプロジェクトに参加しての感想と疑問、というテーマで水谷さんが指摘された三つの柱を軸にまとめていきたいと思います。

## 1. 日本と海外の JAL ネットワーク

\* 県立・市立・私立美術館との繋がり

このプロジェクトのおかげで今まで足を踏み入れたことの無かった美術館や研究機関、その舞台裏を東京だけでなく、京都・奈良も含め見ることができました。ただ、訪問先が国立と元国立機関が対象でホノルル美術館に類似した規模(大きさ・予算等)の県立・市立の美術館、あるいはプライベートの美術系団体などが含まれていなかったのがとても残念でした。加えて、あまりにも駆け足だったために名刺交換だけで終わってしまったのではないかと、ハワイにもどって今後この繋がりを発展させていけるのか、などの懸念も残ります。

## 2. 海外での JAL ネットワーク

\* それぞれの資料室での検索方法・手段の共有、問題点 (実践)

若葉マークのライブラリアンとして参加させていただいて、世界で同じような仕事に従事されている日本人の方が一つの場所に集結したこと、その方たちと短い間ではありましたがご一緒できたことがなによりの収穫だったと思っています。ただ、初日に簡単な自己紹介だけでこのプロジェクトがスタートしてしまい、ここにいらっしゃる方それぞれの職場や国でのライブラリアンを取り巻く環境、どんなレファレンスツールをどう使いどんなことで頭を悩ませているか、などの情報交換をする機会がほとんど持てぬまま終わってしまったのが心残りです。たとえば、プロジェクト開始の早い段階で、我々参加者間でレファレンスにまつわる検索データベースや個々の OPAC 検索の実践、日本国外から日本美術情報入手する際のルートや手段、問題点などを具体的に意見交換をした上で、日本の現状をいっしょに見て回ることができればさらに踏み込んだディスカッションができたのではないかとそれが私の率直な感想です。みなさんにお会いしたら聞いて

てみたいと思っていた実務的な質問が実はたくさんあったのですが、日程的に毎日いっぱいいっぱい、後半はこのワークショップのプレゼンテーションの準備もあつたり、といったあわただしいなか今日を迎えてしまい、今後それぞれの職場に戻ってから我々自身の活動範囲が広がるような結果を残せたのか？そんなことを思いました。

### 3. 日本の美術情報資料の基礎を客体化する

#### \*？疑問に思ったこと

私はライブラリースクールを卒業して以来、気が付けばもう20年になりますが、ずっとライブラリアンとして歩いてきました。アメリカで司書としての教育を受けた私はプロとしての第一歩を縁あって日本でスタートしたわけですが、その当時幾度となく戸惑ったという記憶が今回いろいろな訪問先で蘇りました。たとえば、

#### \*情報へのアクセスが改善されないのはなぜか？

アメリカでは共通言語が一つではありません。日本は同じ言語を話し、一貫した教育を受けられる国です。その国の公共施設の情報発信力がどうしてどうもバラバラなのでしょう？「一括検索」というのはどこへ行けばできるのでしょうか？

#### \*最優秀順位は？ — 収集？公開？保存？

今回の訪問先ではさまざまな取り組みがなされ、消えかけている貴重な資料を収集し限られたスペースと格闘しながらも保存に努めているという現状を見せていただきました。各機関で独自のウェブサイトが公開されていることも知りました。その集められた資料のデジタル化が進んでいることもわかりました。今回お邪魔できなかった地方の美術館や図書館でも同じようなことが行なわれているのだと思います。私がお尋ねしたいのはその先になにかがあるのか？つまり、

#### \*収集するのは何のため？

「保存・保管する」ということが最終目的なのでしょう？そして、デジタル化を進めていく先にアクセスの向上というゴールが存在するのでしょうか？残念ながら私にはその部分が見えて

こない機関が大半でした。我々ライブラリアンの仕事には情報を探している人にその情報がある場所を示すだけでなく、その人に届けるという目的も含まれています。ハワイのような海に囲まれた土地ではなおのことアクセスできるというのは入手すると同意語なのです。『デジタル化 ≠ アクセス可能』という方程式を解くカギがどこかにないものか？と日本滞在中ずっと考えていたように思います。

#### \*未来へのビジョン

国際社会の中の日本の位置・日本国内の社会問題  
ミュージアム・ライブラリアンの現状と日本人ライブラリアン

さきほどお話した「春画展」がどうして日本で開催されないのでしょうか？

ホノルル美術館でも大英博物館でも開催にあたってのリスクはありました。芸術とは呼べないと思っている方々もいますし、未成年者への配慮や、宣伝の仕方など難しい点は多々ありました。でも蓋を開けてみないとわからないこともたくさんあるのです。セインズベリーの平野さんもおっしゃっていましたが英国では受け入れられたのです。ハワイでもしかりです。春画展に限らず、個別の諸事情はどこにでもあります。ホノルル美術館は規模も小さいですし、公共機関ではありません。予算にしても人材にしても厳しい現実と常に戦っています。ただ、日本のアートを中心とした文化を研究し、広めていく大学教授や研究者が海外にいるからこそ日本が国際社会で理解され、そこに学ぶ学生がいて、日本文化が世界に広まり国際社会での日本の地位が確立していく原動力になっているとしたら、海外から日本の文献やデータにアクセスする手段が向上していかないのであれば国際社会から取り残されていく感拭えないように思います。身近な例でたとえると、たとえばWorldCatやJSTORのようなワールドワイドな情報検索システムに参加することはできないでしょうか？むしろ焦点は個別の組織に当ててではなく、日本というひとつの国としての連携ではないでしょうか？

私のように海外にも日本語を理解し日本の資

料を検索しているライブラリアンや学芸員はいます。それでも思った資料に突き当たらないのです。もし日本に住んでいたらこういった疑問は生じないのでしょうか？

資料を収集し、目録を付け、管理するシステムを構築した先にあるビジョン。5年先、10年先にどうなっていたのかという未来のビジョンを明確に感じ取れた機関をひとつ京都で見つけました。空き時間にたまたま訪れた京都国際マンガミュージアムです。実は今年のホノルル美術館での「春画展」に何人かのマンガ家の方々にもご参加いただいて、その原画をお借りしてアラーキーの写真の隣りに展示しています。来年の秋には『Harajuku』がテーマのテキスタイルの展示会も計画しています。最近入ってきたインターンのアメリカ人大学院生はマンガがきっかけで日本に興味を持ち、現在ホノルル美術館で歌舞伎について研究しています。そんな経緯でふらりと立ち

寄った京都国際マンガミュージアムで対応していただいた学芸員やスタッフの目指している夢や情熱に加え、午後からの特別講演会とオープニングを見学させていただけたのはとても幸運でした。日本で我々と同じビジョンを持った方たちに出会え、ほっとしたのと同時に、京都国際マンガミュージアムの未来へのビジョンと京都精華大学マンガ学部の教授や学生を取り巻く国際的なネットワーク中に、私が解けなかった方程式の解決策のヒントがあるように思いました。

以上、まとまりのない発表になりましたが、JAL2014 プロジェクト事務局ならびに関係機関のみなさま、そして短い間でしたがご一緒できた6名の参加者のみなさまに心から感謝しお礼を申し上げます。

## JALプロジェクト2014

<日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言>

アメリカ側から見た日本

収集？公開？そして未来へのビジョンは？

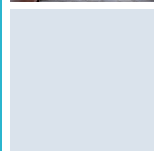
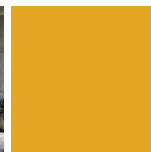
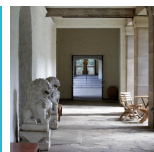
A view from an American museum librarian  
Collection Development vs Open  
Access:

*What is your vision for the future?*

ホノルル美術館ロバート・アラトン美術ライブラリー

カワイアエ・藤田 幸代

## Honolulu Museum of Art



1927 Honolulu Academy of Arts  
2011 merger with The Contemporary Museum  
2012 Honolulu Museum of Art

50,000+ works of art / Budget \$12 million / 100 employee

## ホノルル美術館へようこそ！

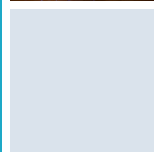
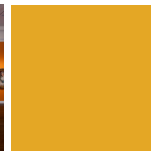
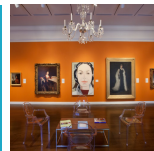
~ East meets West ~

Honolulu  
Museum  
of Art



3

## Galleries & Gardens



建築デザイン：Bertram Goodhue

4



5



6



藤田 : WSプレゼンテーション・スライド



7



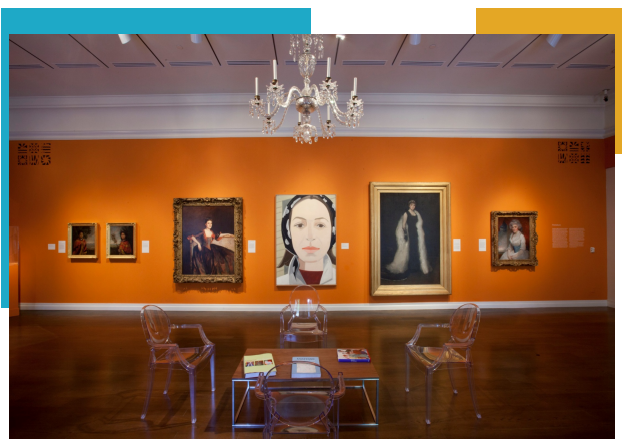
8



9



10



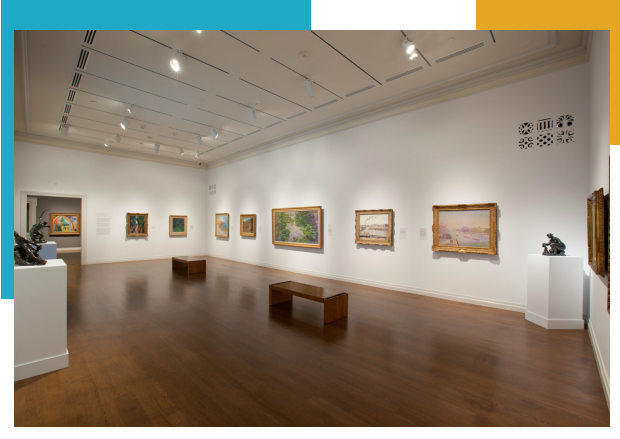
11



12



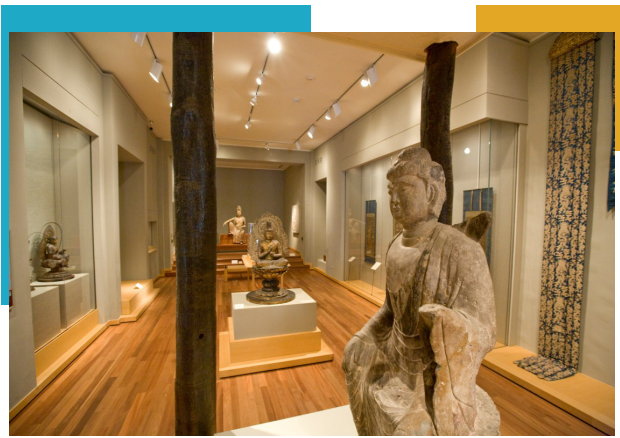
藤田：WSプレゼンテーション・スライド



13



14



15



16



17



18



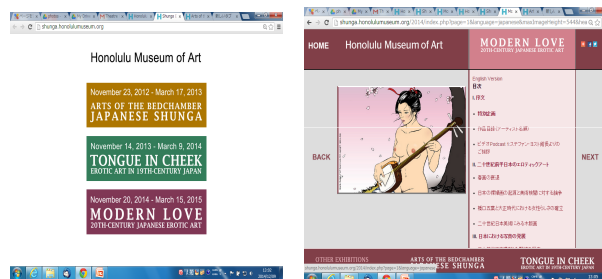
12,000作品のうち6,400作品はデジタル化されオンライン上で公開。すべての作品をデジタル化する予定。

TMS (The Museum System)  
art.honoluluuseum.org

19

春画展：2012 - 2013 - 2014  
[shunga.honoluluuseum.org](http://shunga.honoluluuseum.org)

Honolulu Museum of Art



20



21



23



24



藤田：WSプレゼンテーション・スライド





藤田 : WSプレゼンテーション・スライド



31



32



33



34



35



36



藤田：WSプレゼンテーション・スライド



37



38



39



40



41



42



43

**PechaKucha 20x20**  
ペチャクチャナイト

44

## ギャラリーからライブラリーへ



45

## Robert Allerton Art Library Advancement Team

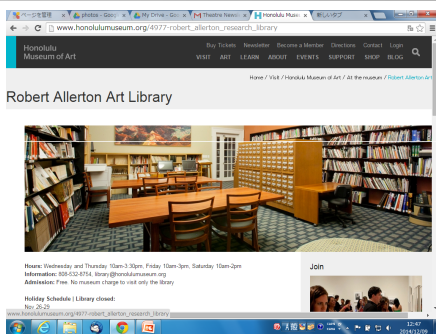


所蔵55,000冊 雑誌40タイトル 4つの商業データベース アーティストファイル  
OPAC (Hawaii Voyager) + 目録カード



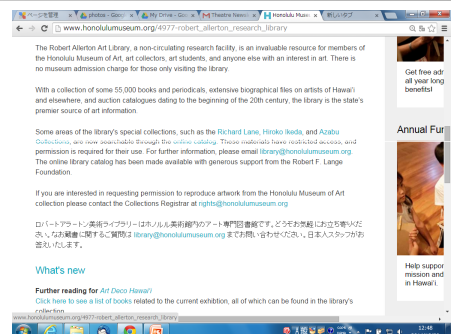
46

## Robert Allerton Art Library ホームページ



47

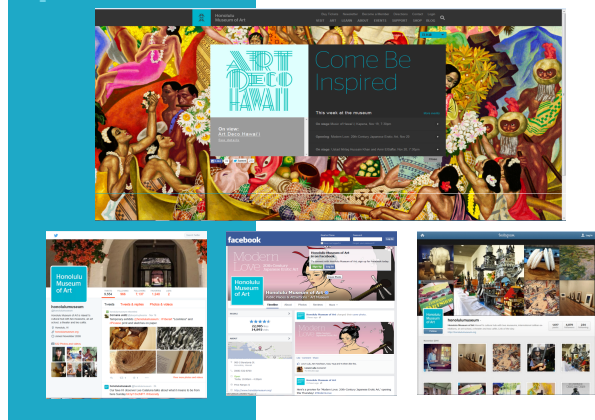
## Robert Allerton Art Library 誰でも使えるライブラリー (入館無料)



48



Click! Click! Click!



Honolulu Museum of Art

Personal history  
ライブラリアンとしての歩み

- 1988~1993**
  - ハワイ大学学士(人文地理学)
  - <ハワイ大学図書館学生アシスタント>
  - 同大学院図書館情報学部修士課程終了
- 1993~1999**
  - 米国政府機関広報文化交流庁(USIA) 東京アメリカンセンター・レファレンス資料室
  - レファレンス・ライブラリアン
- 2000~2012**
  - ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ図書館
  - レファレンス・ライブラリアン
  - (Cataloging/Instruction/Outreach)
- 2012~**
  - ホノルル美術館
  - ミュージアム・ライブラリアン

プロジェクトに参加しての感想と疑問

- 日本と海外のJALネットワーク
  - × 県立・市立・私立の美術館とのつながり
- 海外のJALネットワーク
  - × それぞれの資料室での検索方法・手段の共有、問題点(実践)
- 日本の美術情報資料の基礎を客体化する
  - ? 疑問に思ったこと:
  - 最優先順位は?
  - 収集? 公開? 保存?
- 未来へのビジョン
  - 国際社会の中の日本の位置・日本国内の社会問題
  - ミュージアムライブラリアンの現状と日本人ライブラリアン

京都国際マンガミュージアム



Mahalo!

Honolulu Museum of Art

